



30分でできるMobile Linkシンクロナイゼーション (Microsoft SQL Server- Adaptive Server Anywhere)



目次

はじめに
Mobile Link シンクロナイゼーション概要5
Microsoft SQL Server 統合データベースの設定
リモート Adaptive Server Anywhere データベースの設定
Mobile Link シンクロナイゼーションサーバの起動
Mobile Link シンクロナイゼーション・クライアント・ユーティリティの起動
法的注意



はじめに

本書は、Microsoft SQL Server統合データベースとAdaptive Server Anywhereリモートデータベース間の データ同期手順について説明しています。ここでは、SQL Serverのサンプルデータベースを使用して、 1つのリモートデータベースを設定、簡単な同期を最初から確立する方法を示しています。

Mobile Linkを使用すると、ODBCに準拠した中央の統合データベースと多くのAdaptive Server Anywhereまたは Ultra Lightリモートデータベースを同期することができます。Mobile Linkシンクロナイ ゼーションは、アイエニウェア・ソリューションズが提供するデータベース統合パッケージであるSQL Anywhere Studioのコンポーネントの1つです。

Mobile Linkシンクロナイゼーション・システムの主要部分を以下の図に示します。



ASA: Adaptive Server Anywhere

- 統合データベース
 このデータベースは、シンクロナイゼーション・システムのすべてのデータを保持しています。
- 統合データベースサーバ

このサーバもしくはDBMSは、統合データベースを管理します。このサーバは、 以下のODBC準拠のデータベースのいずれかである必要があります: Adaptive Server Anywhere、Adaptive Server Enterprise、Oracle、IBM DB2とMicrosoft SQL Server。本書では、統合データベース・サーバとしてSQL Serverを使用します。

● ODBC接続

Mobile Linkシンクロナイゼーション・サーバと統合データベースサーバ間のすべ ての通信はODBC接続を介して行われます。このODBCにより、シンクロナイゼー ション・サーバは、多様な統合データベース・システムを利用することができる ようになります。本書では、ODBC接続は、SQL Server ODBCドライバによって 確立されています。



- Mobile Linkシンクロナイゼーション・サーバ 本サーバ、dbmlsrv9は、シンクロナイゼーション・プロセスを管理し、すべての Mobile Linkクライアントと統合データベース・サーバ間のインタフェースを提供 します。
- ネットワーク

Mobile Linkシンクロナイゼーション・サーバとMobile Linkクライアント (dbmlsync または Ultra Light)間の接続には、いくつかのネットワークプロト コルが使用できます。ここでは、TCP/IPプロトコルを使用します。

• Mobile Linkクライアント

クライントは、Pocket PCやPalm Pilotなどのハンドヘルド・デバイス、サーバま たはデスクトップパソコン、携帯電話や自動販売機などの組み込みデバイスにイ ンストールすることができます。Mobile LinkクライアントとしてAdaptive Server Anywhere (ここで使用)とUltra Light、2つのタイプのクライアントがサポート されています。Mobile Link シンクロナイゼーションではどちらでも使用すること ができます。

Mobile Link シンクロナイゼーション・システムでは、以下のソフトウェアが必要となります。

- 完全なSQL Anywhere Studio 9.0.1
- 完全なSQL Server2000とNorthwindサンプル・データベース



Mobile Linkシンクロナイゼーション概要

Mobile Linkシンクロナイゼーションを行うために、Microsoft SQL Serverデータベースを設定します。これに必要な手順の概要を以下に示します。各手順については、次の章で詳細に説明しています。

- Microsoft SQL Server統合データベースの設定
 - あらかじめ定義したSQLスクリプト(syncmss.sql)を実行し、Microsoft SQL Serverデー タベースを Mobile Link統合データベースにするよう準備します。これにより、Mobile Linkテーブルとストアド・プロシージャが追加されます。
 - SQL Server ODBCドライバを使用して、Microsoft SQL ServerデータベースのODBC データソースを定義します。
- リモートAdaptive Server Anywhereデータベースの設定
 - 1. Adaptive Server Anywhereデータベースを作成します。
 - 2. Adaptive Server Anywhereデータベースに、同期テーブルなどのMicrosoft SQL Server スキーマのサブセットを移動します。
 - リモート・シンクロナイゼーション・パブリケーション、シンクロナイゼーション・ユー ザとシンクロナイゼーション・サブスクリプションを作成します。
- データをアップロード、ダウンロードするためのスクリプトの作成
 - 1. Mobile Linkは、柔軟性を持つ同期スクリプトを使用します。これによりユーザはデータ を同期することができるようになります。同期スクリプトは、以下を定義します。
 - リモートデータベースからアップロードされたデータの統合データベースへの適 用方法
 - 統合データベースからダウンロードするデータ

これらのスクリプトは、個々のステートメントか、統合データベース内のストアド・プロシージャ・コールになります。簡単なケースでは、コマンド・ライン・オプションを使用して、Mobile Linkシンクロナイゼーション・サーバをランタイムに自動的にスクリプトを生成するよう設定することもできます。

- Mobille Linkシンクロナイゼーションの起動
 - Mobile Linkシンクロナイゼーション・サーバを起動します(dbmlsrv9) これにより、Mobile Linkサーバは、クライアントのシンクロナイゼーション・リクエス トを待つようになります。
 - Mobile Linkシンクロナイゼーション・クライアント・ユーティリティ(dbmlsync)を起動してシンクロナイゼーション・セッションを開始します。



NOTE

本書のいくつかの例は、Sybase Centralによって示されています。Sybase Centralは、Adaptive Server Anywhereデータベースの設定、プロパティ、ユーティリティをグラフィカルなユーザ・インターフェー スで提供するデータベース管理ツールです。Sybase Centralは、ほとんどの場合、ウィザードにより使 用しますが、Sybase Central、Interactive SQL、コマンド・ラインを交互に使用することもできます。



Microsoft SQL Server統合データベースの設定

ここでは、Microsoft SQL Serverのデモンストレーションやトレーニングに使われる、Northwindサンプル・データベースを使用します。

Mobile Linkシステム・テーブルのインストール

Mobile Linkには、SQL Anywhereインストール先の¥MobiLink¥setupサブディレクトリにsyncmss.sqlと 呼ばれるスクリプトがあります。syncmss.sql は、Microsoft SQL ServerデータベースをMobile Link 統 合データベースとして使用できるようにするためのSQLステートメントを含むファイルです。このスク リプトは、必要なシステムテーブルとML_で始まるプロシージャを作成します。Mobile Linkは、必要な システムテーブルとML_で始まるプロシージャを作成します。Mobile Link は、シンクロナイゼーショ ン・プロセス中には、これらのテーブルやストアド・プロシージャを使って動作します。

~ MobiLinkシステムテーブルのインストール~

- 1. [スタート]メニューから[プログラム] [Microsoft SQL Server] [クエリアナライザ]を選択し、SQL Server Query Analyzerを開きます。
- 2. ツールバーのDBドロップダウンメニューからNorthwindサンプル・データベースを選択します。
- 3. SOLスクリプトを実行します。
 - [ファイル]メニューから[開く]を選択し、SQL Anywhereインストール先の¥MobiLink¥setupサ ブディレクトリにあるsyncmss.sqlを選択します。
 - F5キーを押してQueryを実行します。

統合データベースのODBCデータソースの定義

Microsoft SQL Serverドライバを使用して、Northwind サンプル・データベースのODBCデータソースを 定義します。

~統合データベースのODBCデータソースの定義~

ODBCアドミニストレータを起動します。
 [スタート]メニューから、[プログラム] [SQL Anywhere 9] [Adaptive Server Anywhere] [ODBC アドミニストレータ]を選択します。
 ODBCデータソースアドミニストレータが表示されます。



2. [ユーザーDSN]タブで[追加]をクリックします。



3. データソースの新規作成ダイアログが表示されます。SQL Serverを選択し、[完了]をクリックしま す。



4. 「SQL Serverに接続するための新規データソースを作成する」ウィザードが表示されます。





5. Data Source Nameに「sqlserver_consolidated」と入力し、[次へ]をクリックします。



6. 次のページで、SQL接続に適当な認証モードを選択し、[次へ]をクリックします。

Microsoft SQL Server 用の DS	N Oligiz	×
	SOL Server が、ログイン ID の権限の確認を行う方法は?	
	〈戻る御 次へゆ〉 キャンセル ヘルブ	L

- 7. Default databaseにNorthwindを選択します。以下の選択肢からはチェックを外してください。
 - Use ANSI quoted identifiers
 - Use ANSI nulls, padding and warning
- 8. 以降はデフォルト設定のままとし、[完了]をクリックします。

同期スクリプト

本書では、同期スクリプトの手動追加は行いません。特別なコマンド・ライン・オプションでMobile Link シンクロナイゼーション・サーバを起動すると、デフォルトのスクリプトは自動的に生成されます。 こ



れらのスクリプトをベースとして、自身のスクリプトを生成することもできます。

Microsoft SQL Server統合データベースの設定はこれで終了です。



リモートAdaptive Server Anywhereデータペースの設定

Mobile Linkは、統合データベース・サーバと多数のモバイル・データベースのシンクロナイゼーション を行うためにデザインされています。この章では、1つのリモートデータベースを作成、統合スキーマの 選択部分を移動、シンクロナイゼーション・パブリケーション、ユーザ、サブスクリプションを作成し ます。

Adaptive Server Anywhereデータベースを作成するための1つの方法がdbinitコマンド・ライン・ユーティリティを使用した方法です。ここでは、リモートデータベースをremote1と呼ぶことにします。

~新しいAdaptive Server Anywhereリモートデータベースの作成と起動~

1. コマンド・プロンプトで、データベースを作成したいディレクトリに移動します。

2. 以下のコマンドを入力して、データベースを作成します。

dbinit remotel.db

3. 以下を入力して、データベースを起動します。

dbeng9 remote1.db

Northwind Microsoft SQL Serverスキーマのサブセットの移動

Northwind スキーマのサブセットの移動では、以下を行います。

- リモートデータベースとの接続
- リモートサーバと外部ログインの作成
- データベースの移行ウィザードの使用



~ Adaptive Server AnywhereデータベースへのMicrosoft SQL Serverスキーマのサブセットの移動~

1. Sybase Centralを起動します。

[スタート]メニューから、[プログラム] [SQL Anywhere 9] [Sybase Central]を選択します。

🌺 Sybase Central		
ファイル(E) 編集(E) ビュー(V) ツール	© ∿1/769	
Sybase Central	▶ ◆ → 圖 및 및 🗄 🗿 🖉 🖬	$\mathbb{R} \times \mathbb{R}$
フォルダ X	IVIE	
Sybase Central	フォルダ(F)	
Adaptive Server Anywhere 9 E- Mobile Link 用期 9	Adaptive Server Anywhere 9 Mobile Link 同期 9	
	_	

 リモートデータベースと接続します。 Sybase Centralの左側のペインからAdaptive Server Anywhere 9を選択します。 [ファイル]メニューから[接続]を選択します。 接続ダイアログが表示されます。

浪 続	2
D データペース 詳細	
() 次の値を使用してデータベースに対して自分自身を認知します。	
(●ユーザロとパスワードを指定します。(S)	
ユーザ D(U):	
バスワード(P):	- 1
○ 統合化ログインの使用(0)	
プロファイルに接納されているデフォルトの機能値を使用できます。 なし(0)	
COBC データ・ソース名(N)	
× \$#0 9	4
COBC データ・ソース・ファイル(F)	-
× 680	
	_
UK 47721/ 1/7	

3. [ID]タブを選択し、ユーザに「DBA」、パスワードに「SQL」と入力します。[データベース]タブでは、サーバ名に「remote1」と入力します。



操続	x 抹映	×
$\mathbb{D}\left[\vec{\varphi} - 2 \vec{\alpha} - \beta \right]$ [1048]	D ∓-9 <<- 2]¥i8	
() 次の値を使用してデータベースに対して自分自身を観対します。	「」 本の情報はデータベース・サーバを識別します。	
④ ユーザロとパスワードを指定します。(5)	サーバ名(S): remote1 東 株本	ŋ
A-9 DU: DBA	開始行 ①:	•
バスワード(空): 🗰	□ ネットワーク上でデータベース・サーバを検索(E)	
(統合化ログインの使用()		
	次の情報はデータペースを避到します。	
プロファイルに接納されているデフォルトの接続値を使用できます。	データベースを(10):	
€ #L(Q)	データベース・ファイル(の): ● ●陽(5	0-1
C 008C ∓-2 · V- 7.8(N)	時号化キー(<u>(</u>):	_
	↓	
1 0000 9-9-19-X-19-110(9)		
	14 BRA (1816) - 3 - 2 - 2 6 M E (P)	
OK キャンセル ヘルフ	OK キャンセル へ	ルフ

- 4. [OK]をクリックし接続します。
- リモートサーバと外部ログインを作成します。
 新しいリモート・サーバの作成ウィザードを起動します。
 左側のペインから[リモート・サーバ]フォルダを選択します。[ファイル]メニューから[新規] [リモート・サーバ]を選択します。
 新しいリモート・サーバの作成ウィザードが起動します。

診断しくリモート・サーバの作成		×
	リモート・サーバ作成ウィザードへようこそ。このウィザードでは、厳しいリ ート・サーバを作成できます。	ŧ
	Adaptive Server Anywhere は、リモート・サーバを使用して、別のデータベー ス・サーバ上にあるデータに対するユーザのアクセスを可能にします。	
	新しいリモート・サーバの名前を指定してください。(W)	
25	1	
	< 戻る(()) 二二〇〇 二二〇 二二〇 二二〇 二二〇 二二〇 二二〇 二二〇 二二〇	_

6. リモートサーバ名を「my_sqlserver」とし、[次へ]をクリックします。



7. サーバタイプにMicrosoft SQL Serverを選択し、[次へ]をクリックします。



8. ウィザードの次のページでは、接続情報に「sqlserver_consolidated」と入力し、[次へ]をクリック します。

診断してリモート・サーバの作成	×
	Adoptive Server Anywhere に、リモート・サーバの接続方法を通知する必要が あります。
	使用する接続のタイプを指定してください。
	④ オープン・データベース・コネクティビティ (00BC)(○)
	C Java テータベース・コネクティビティ (J000)(j)
	このサーバの接続情報を指定してください。たとえば、OCBC リモート・サーバ の場合は、「datasource1」と入力することで、「datasource1」という名前のO DBC データ・ソースを使用するサーバを指定します。JDBC リモート・サーバの 場合は、「arvn1:26300.8b1」と入力することで、データベース「db1」を持つ、ポ ート「2630」上のサーバ「arvn1」を指定します。 接続情報を指定してください。(W)
	sgiserver_consolidated
	< 変る()) (アヘ() × () × () × () × () × () × () × () ×

9. ウィザードの最終ページでは、「現在のユーザの外部ログインを作成する」を選択します。Microsoft SQL Serverインスタンスに接続するためのログイン名とパスワードを使用します。



診断し、リモート・サーバの作成		×
	このデータベースにユーザでBAYとして開設しました。リモート・サーバがこの データベースで実施されたパスワードと同じパスワードを使用してユーザでBAY を定頼していない場合、リモート・サーバに開発するには、外部ログインを作成 して、このユーザの代替ログインるとパスワードを割り出てる必要があります。	
	□ 鏡在のユーザの外部ログインを作成する(E)	
05	ログイン名(1):	
	パスワード(B):	
	パスワードの補助(():	1
	[先了]をクリックすると、リモート・サーバが作成されます。	
	< 裏る()) 二二〇〇 二二〇〇 二二〇〇 二二〇〇 二二〇 二二〇 二二〇 二二〇 二	

- 10. [完了]をクリックして新しいリモート・サーバの作成ウィザードを終了します。
- Microsoft SQL Serverスキーマを移動します。
 左側のペインでAdaptive Server Anywhere 9プラグインを選択し、右側のペインで[ユーティリティ]
 タブを選択し[データベースの移行]をダブルクリックします。

🏠 Sybase Central		
ファイル(E) 編集(E) ビュー(V) ツー)	レ① タスク(合) ヘルプ(日)	
Adaptive Server Anywhere 9		2 日 2 日 2 日 2 日 2 日 2 日 2 日 2 日 2 日 2 日
¥ #		
77119 ×	サーバ ユーティリティ サービス	
Sybase Central	68	10.69
Adaptive Server Anywhere 9	🏷 データベースの作成	新しいデータベースを作成します。
B- ₩ remote1	🏷 データベースのアップグレード	現在のバージョンにデータベースをアップグレードします。
E- I remote1 - DBA	🏷 データベースのバックアップ	アーカイブにデータベースをバックアップします。
E = = 7/	🏷 テータペースのリストア	アーカイブからデータベースをリストアします。
	🔀 バックアップ・イメージの作成	データベース・ファイルのバックアップ・コピーを作成します。
	🎘 データベースのアンロード	SQL コマンド・ファイルにデータベースをアンロードします。
	データペースの抽出	リモート・ユーザ用にデータベースを抽出します (SQL Remote
	ア データペースの検証	データペースの内容を検証します。
	データベースの圧縮	データベースから圧縮データベースを作成します。
- Ex42		圧闘チータベースからチータベースを作成します。
Ⅲ- 🗀 ユーザとグループ	2 71 F 771 NO1943	テーダベース間はのライト・ファイルを作成します。
- 🚞 統合化ログイン	へ カメンム語音の作品 第 ログ・ファイルの実施	カメダム融合ノアイルを作成して特殊します。
()- 📄 SQL Remote 그 - ザ	○ ログ・ファイルの実施	54. コマンド・ファイルにロン・ファイルで美聞します。 ギータバーフのログ・ファイル協定を定義します。
😥 - 🧰 Mobile Link ユーザ	ティータベースの演奏	データペースのファイルを選去します。
毎- 🚞 パブリケーション	メ データベースの時行	リモート・サーバからデータペースに構造とデータを移行します…
🛞 🛁 Utra Light プロジェク	Interactive SQL を聞く	Interactive SQL ウィンドウを開きます。
⊕-	🗃 ODBC アドミニストレータを聞く	ODBC データ・ソースを管理します。
白ー 🛄 リモート・サーバ		
- Web 9-22		
Mobile Link PURH 9		
	all	

12. データベースの移行ウィザードが起動します。 [次へ]をクリックします。





13. 移行先のデータベースとしてremote1を選択し、[次へ]をクリックします。



14. 次のページでは、移行元のサーバにmy_sqlserverを選択し、[次へ]をクリックします。







15. 移動するテーブルとしてCustomersとEmployeesを選択し、[次へ]をクリックします。

16. ウィザードの最終ページでは、「データの移行(D)」オプションのチェックを外します。



17. [完了]をクリックします。

Microsoft SQL Serverスキーマの移動はこれで終了です。



リモート·シンクロナイゼーション·パブリケーション、シンクロナイゼーション·ユーザ、 シンクロナイゼーション·サブスクリプションの作成

 Interactive SQLを起動します。
 Sybase Centralの左側のペインで、remote1データベースを選択します。[ファイル]メニューから [Interactive SQLを開く]を選択します。



Connectダイアログが表示されます。

Hannel 200000 (00) 3410 March 200 F-90 F-80 NOPM 1478	.0.
74.3	2
	1
and -	Ja . 14.1



 シンクロナイゼーション情報を入力します。 Interactive SQLで以下のコマンドを実行します。

CREATE PUBLICATION sample_pub (TABLE Customers, TABLE Employees);

CREATE SYNCHRONIZATION USER ml_user1;

CREATE SYNCHRONIZATION SUBSCRIPTION TO sample_pub FOR ml_user1 TYPE TCPIP

ADDRESS host=localhost OPTION scriptversion= ver1 ;

リモートデータベースと統合データベースの準備ができました。これでシンクロナイゼーション・ プロセスを開始することができます。



Mobile Linkシンクロナイゼーションサーバの起動

Mobile Linkシンクロナイゼーションサーバの起動(dbmlsrv9)

1. コマンド・プロンプトで、以下を1行に入力します。

dbmlsrv9 -c "dsn=sqlserver_consolidated" -o serverOut.txt -v+ -dl -za -zu+ -x tcpip

NOTE

Mobile Linkテクノロジでは、コマンド・ファイルのコマンドライン・オプションを意図的に分かりにく くすることもできます。dbfhideユーティリティの詳細については、Mobile Linkのドキュメントをご覧く ださい。

dbmlsrv9ユーティリティで使用される各オプションを以下の表に示します。-o、-v、-dlオプションは、 デバッグ情報や障害情報を提供します。これらのロギング・オプションは開発環境で使用するのに有効 です。通常の場合、-vオプションと-dlオプションは、パフォーマンス上の理由により、運用段階では使 用しません。

オプション	説明
-c	接続文字列の前に付けます
-0	メッセージログファイルserverOut.txtを指定します
-v+	-vオプションはどの情報をログするかを指定します。-v+オプションを
	使用すると最大限詳細なログを出力することができます
-dl	画面にすべてのログメッセージを表示します
-za	自動スクリプティングをONにします。-zaオプションは、通常、自身の
	スクリプトを記述するための開始点としてスクリプトを生成するのに
	使用されます。スクリプトは、リモート側が同期したときに最初に生
	成されます。スクリプト・バージョンがすでに存在する場合は、-zaオ
	プションは何の影響も与えません
-zu+	新しいユーザを自動で追加します
-X	Mobile Linkクライアントの通信プロトコルとパラメータを設定します

Mobile Linkシンクロナイゼーション・サーバがリクエストを受け付けられるようになったことを示すダ イアログが表示されます。







Mobile Linkシンクロナイゼーション・クライアント・ユーティ リティの起動

Dbmlsyncユーティリティは、Adaptive Server Anywhereリモート・データベースのMobile Linkシンクロ ナイゼーションを開始します。

シンクロナイゼーション・クライントの起動

1. コマンド・プロンプトで、以下を1行に入力します。

dbmlsync -c "eng=remotel;uid=dba;pwd=sql" -o rem1.txt -v+

-e "SendColumnNames=on"

各オプションを以下の表に示します。

オプション	説明
-C	接続文字列の前に付けます
-0	メッセージログファイルrem1.txtを指定します
-v+	-vオプションはどの情報をログするかを指定します。-v+オプションを
	使用すると最大限詳細なログを出力することができます
-е	-eオプションは、拡張オプションを指定します。このケースでは、カラ
	ム名をMobile Linkシンクロナイゼーション・サーバに送るために使用
	されています(自動スクリプティングに必要)。SendColumnNamesパ
	ラメータは、通常、Mobile Linkシンクロナイゼーション・サーバで同
	期スクリプトを自動的に生成するために、–zaオプションや-zeオプショ
	ンと一緒に使われます。

Mobile Linkシンクロナイゼーション・クライアントをスタートさせると、Mobile Linkシンクロナイゼー ションが成功したことを示す出力画面が表示されます。Microsoft SQL Serverテーブルのデータは、これ で、Adaptive Server Anywhereデータベースに表示されるようになります。





リモート・データベースのローの値を確認して、シンクロナイゼーションが成功したことを確かめるこ とができます。



リモートデータベースのローの値の確認

- 1. Sybase Centralを開き、Adaptive Server Anywhere 9プラグインを使用してremote1データベースに 接続します。(まだ接続していない場合)
- 2. [テーブル]フォルダを開き、Employeesテーブルを選択します。右側のペインで[データ]タブを選択 します。Microsoft SQL Server統合データベースからダウンロードしたデータが表示されます。





法的注意

Copyright(C) 2005 iAnywhere Solutions, Inc. All rights reserved.

iAnywhere、iAnywhere Solutions、iAnywhere Solutions(ロゴ)、Adaptive Server、SQL Anywhereは iAnywhere Solutions, Inc.またはSybase,Inc.とその系列会社の米国または日本における登録商標または 商標です。その他の商標はすべて各社に帰属します。

Mobile Linkの技術には、Certicom,Inc.より供給を受けたコンポーネントが含まれています。これらのコンポーネントは特許によって保護されています。

本書に記載された情報、助言、推奨、ソフトウェア、文書、データ、サービス、ロゴ、商標、図版、テキスト、写真、およびその他の資料(これらすべてを"資料"と総称する)は、iAnywhere Solutions,Inc.とその供給元に帰属し、著作権や商標の法律および国際条約によって保護されています。また、これらの資料はいずれも、iAnywhere Solutions,Inc.とその供給元の知的所有権の対象となるものであり、iAnywhere Solutions,Inc.とその供給元がこれらの権利のすべてを保有するものとします。

資料のいかなる部分も、iAnywhere Solutionsの知的所有権のライセンスを付与したり、既存のライセン ス契約に修正を加えることを認めるものではないものとします。

資料は無保証で提供されるものであり、いかなる保証も行われません。iAnywhere Solutionsは、資料に 関するすべての陳述と保証を明示的に拒否します。これには、商業性、特定の目的への整合性、非侵害 性の黙示的な保証を無制限に含みます。

iAnywhere Solutionsは、資料自体の、または資料が依拠していると思われる内容、結果、正確性、適時 性、完全性に関して、いかなる理由であろうと保証や陳述を行いません。Sybaseは、資料が途切れてい ないこと、誤りがないこと、いかなる欠陥も修正されていることに関して保証や陳述を行いません。こ こでは、「iAnywhere Solutions」とは、iAnywhere Solutions, Inc.またはSybase,Inc.とその部門、子会社、 継承者、および親会社と、その従業員、パートナー、社長、代理人、および代表者と、さらに資料を提 供した第三者の情報元や提供者を表します。

*本書は、米国iAnywhere Solutions社が作成・テストしたものを日本語に翻訳したものです。



iAnywhere solutions a sybase company

アイエニウェア・ソリューションズ株式会社 http://www.ianywhere.jp/